

ケイシーへの挑戦

今村光一 訳 ハーバート・B・バーヤー著 中央アート出版

* 人の進歩を促すもの

頭で知っていることではない、知っている事をいかに活用するかにある・・・
言い方を変えると人の生涯で魂は精神的・物理的進歩をもたらすものとは心が何かを知っているかではなく、知っているものを心がどう生かすかにある

* 真理こそが人を本当の意味で自由にするを良く自覚せよ

人はしきたりや物理的な方針で自由になるのではなく霊と真理の中で自由になる、というのは、サムシング・グレードは人の言う＝しきたりではなく胸に秘めた目的や理想を見ているからだ

* 人の成長と目覚め

「己を征服する」事は多くの世界を征服することより偉大である、どこの世界にあっても人の発展のために「**とことん我身を捧げ尽くす**」事が人を成長させ目覚めへの意識を育ててくれる

「**人への奉仕**」は創造主に対する最大の奉仕である

* 「願うところのものが人の運命となる」

願いの通りに意思があり、意思の通りに行為があり良かれ悪しかれ、その行為の通りに報いがある

* アルクトウルスはこの宇宙の中心と呼べる星であり魂はそこを通過する時に、この太陽系に戻ってくるか他の星に進むのかの自由選択が与えられている。

アルクトウルスの力は全て意思の力の中で拡大される、**自分を征服する事は数多くの世界を征服することより遥かに偉大で太陽の力さえ征服する**

* ケイシーの比類なき業績は彼がこの宇宙的な力とか意識とかを自分の波長に合わせる力を持っていたということ、**我々は皆グレートサムシングの一部であり、それと波長合わせができるのだ**＝このことは検討し試してみればよい

自分のことより他人の為に尽くしているか？ 静かな時間を持っているか・・・

* 松果腺を働かせるという事は心の想像力を働かせることだ、その事は松果腺のホルモン分泌と特に密接に関係している松果腺は自律神経組織や潜在意識と結びついていて、このプロセスは深い瞑想の中で強く呼び起せる、そして

肉体の中の霊的センターの中で「**クンダリニ**」の力で呼び起され、内分泌腺系全体に及び松果腺の働きは頂点に達し、体の細胞の全てに指令を発するホルモンが分泌される、これらの全ての働きが「**若返り**」にとって根本的に重要

「**クンダリニの力を高める**」のは理想を抱いた心である、総合的な結果として

体全体も7年ごとにすっかり新しいものになるので

このサイクルの全期間を通じて治療が必要である。

* 「長生きしたいと欲する心は一体何のためか」 この心は極めて重要である

十戒で「汝の父母を敬え・・・」父母とは霊と地上のこと、それを敬うと寿命を延ばすと、それではどこからスタートすべきか～ケイシーのリーディングは「自分の内に目を向けよ・・・何故なら汝の肉体は寺院だから、そこで神は汝と会う約束をした、そこで汝は神と接触できよう、外ではない、外のもの内ものものに従わせればよい、神と汝の関係はどんな具合に行っているのか・・・」

{ ケイシーの原理 }

- イ. 一体性～全ての力は一つに統合されている、この力は生命光・愛、それは神に他ならず神は法であり愛である
- ロ. 霊的存在・・・人間は神の子で、その生命は世界の原初から永遠の未来に亘って生き続ける
- ハ. 理想・・・自分の生き方に関し正しい動機や基準を確立すること
- ニ. 三位一体性・・・我々は物資・精神・霊の3つの側面から考えなければならない、霊は生命で心（精神）は創造者、物質は結果、人は心が考えている通りになる
- ホ. 瞑想・・・我々の起こす全ての疑問は霊によって回答を与えられる、それは霊を信頼して与えて貰うことであり瞑想の沈黙の中で与えられる
- ヘ. 自分を脇に置く・・・人は誰も低い自己を持つという側面がある、自己を主体としたがる精神を無くするようにしなければならぬ
- ト. 実行・・・以上は実際の生き方・仕事・奉仕の上に直接的に生活すべき哲学であり、ケイシーは常に知ったところを実行した段階で次のステップが始まるのだ、と云う

～他人が希望の光を見出せるか、愛を感じるか、行動の基準となる

～他人に自分は何ができるか常に考えて行動する

{ 自己革命 }

*手をかざしたり、手で触れたりする母が子への思いやりは他人にも自分に対しても内なるものと波長合わせするのに有効で、その場で即座に病気を治せることも珍しくない、何度も何度もやり続けること

*肉体的治療 C A R E (Circulation、Assimilation、Rest、Elimination)

～循環・消化・休息・排泄

「循環」・・・整体術の効用は血液の循環が良くなり細胞が一番良い状態で働くようになる、血液は細胞に栄養と酸素を運び細胞からは有害物質を運び出すホルモンも血液によって細胞に運ばれている、

神経細胞に効果を発揮する一番良い運動は歩くこと・マッサージも良い

～頭と首のストレッチ体操・・・前後左右に各三回ずつ頭を倒し左右は三回ずつ首を回す、頭上に手を挙げて行くとよい、1回に5分ずつ1日に3回すると目や・その他の感覚器官の為に特にいい効果がある頭全体にも良い！！

「消化」・・・血液の循環が細胞にもたらす栄養も・もとはと言えば消化によって体に吸収される、生活上・人の態度や情緒が大切、食事の時に積極的に陽気な気分は消化を促進する、心配ごとは厳禁、食前に一杯の水を飲むことで消化は促進される、噛むことの大切さ～唾液の働きは胃や腸でも有効となる

「睡眠の効果とリラックス術」～ケイシーは1日に7～8時間の睡眠が必要という、それ以下だと体・心・靈魂の3つの分野で機能を傷つける。

～体内の代謝のプロセスは

① 体の組織や細胞を作る

② 老化させ、やがて捨てて行く、この事を旨く働かせるのが睡眠であり短くなると病気として現れること・機能の障害を起こすことの蓄積となる。

夢見る睡眠の大切さ～毎日90分、夢は物質的・精神的・靈的・肉体全てに極めて重大な意味を持っている・夢は情報・インスピレーション・導き・創造的洞察・靈的体験の源泉である

1時間のマッサージは4時間の睡眠に相当する！

～効果的なリラックス方法の3つの鍵～

① 自分にストレスをかけるような事は積極的・建設的パターンに転換する

② 呼吸術～息をゆっくり吸いながら自分は・・・と、語り・かつ息を吐くときに・・・である、リラックスしていく体の隅々を視覚的に見る

「排泄」排泄には4つあり肺・皮膚・腎臓・大腸それぞれ正しい姿勢を保つこと、タバコは禁止、オリーブオイルで全身マッサージ、1日に7～8杯の水、繊維質の多い野菜、規則正しい食事をよく噛み楽しく頂き規則正しい排泄を行う

{ 生まれ変わり }

聖書の中に電気という言葉が発見でいないのと同じように“生まれ変わり”という言葉も発見できない、しかしいくつかの原理や法則は発見できるだろうそしてその原理や法則の内容の豊かさや美しさは生命の連続とか輪廻転生のサイクルといったことを理解した場合にだけ初めて納得できるものだ。

ケイシーのディーリングは人間にとって本当に大切な研究は「自己を研究」する事だと、靈魂は生命を・・・心は物を作り・・・物資は結果だ・・・心は宇宙でも例がないほど無限の存在である。

宇宙にはただ唯一の力だけが存在する・・・その力は全ての生命の根源であるばかりではなく、それ自身が生命である。

心は靈的なものと物質的なものとの仲介者である。

心を通じて人には神と共同創造者となるチャンスを与えられている。

人は神と人間同胞への愛を持ち、それによって生きている時だけ神の力が自分を変えてくれるようにできる。

* 身体と靈魂は精神という蝶番でつながっている、人が自己の靈的發展の為に大きなステップを示せるのは自分の考えに責任を持ちその影響力をプラスの方向に向けて活用する時にだけであるということを知るべきだ

* 一体性の法則～人にとって一番重要なことは靈的な理想とは何かを知る事だ～汝の目一つになれば汝の肉体は光で満たされん～意図と一つになれば肉体的・精神的・靈的に光に満たされる、一体性の精神は寛容の精神を要求する、ケイシーが繰り返し言っている前提は“全ての力是一个のものだ”という事だ

* 三次元的に体験する我々の世界「時間・空間・忍耐」

「時間」～成長と変化の形をとって人が体験するものや意識・学習を計ったり特徴づけたりするもの、四季の変化・昼と夜・種が育ち花を付け・やがて枯れていくことの中に神の手が働いている

「空間」～人が時間の中で様々な体験をする時に、その場所となっている・・・美しい花・見事な夕日等自然の中で姿を現す、すべての創造の中に神の手が見えてくる

「忍耐」～時間と空間を超えたもの、能動的な力であり、生命の力が深い瞑想の中で人間の内部で起こるから瞑想が必要、靈魂の成長に関しても宇宙靈や・一体性と十分に波長を合わせるか否か忍耐という物差しで測る

以上個人・個人のレベルで神の姿が現れているのを見るときには、それに時間・空間・忍耐という3つの次元を通じて神を体験している、そして最も重要なのが忍耐である、忍耐は能動的な力で深い瞑想の中で我々は肉体の中に靈的な力を起こすことが出来、その力は体の中の7つの靈的センターを流れる

→ 7つのチャクラを通じホルモンの力で若返ることになる

* ケイシーは言う「自分が蒔いた種は自分で刈らなければならない」は人が生活する上でまぎれもない事実である・・・そして更に一つの前世に於いて、ある態度や行動のパターンを作ったとする、するとそれは後の生に於いて肉体に・目に見える結果となって出てくる事がある、だから現在の我々の体の特徴や病気なども前の生における態度や行動の結果かもしれない

{ 恩寵を得るには3つの鍵がある }

- ① 理想を決定すること
- ② 理想に合致する行動を選択すること
- ③ その選択通りに行動すること

- ～恩寵を望むなら「恩寵の行動」で生きることだ、そして慈悲深くなることだ
- ～友を持ちたければ自分が友好的になる事だ
- ～他人に忍耐を望むなら自分がそうすることだ

{ 神の意志 }

- ～人は創造的行動の上でより大きな自由をもたらす宇宙的な法則と調和する選択をせよ、ということだ
- ～神の意図は無限の豊かさ・生命と愛の様々な変化やいろんな側面を経験させようとしている

* 神が与えた最大の贈り物は「自由意志」だ、この贈り物を創造的に生かせ、というのが神の願いだ

「行動の基準」他人が希望の光を見出せるか愛を感じるか、他人に自分は何ができるのか、常に考えて行動する

* 他の星での生の体験

- 1次元・・・“土星” 地球的悲哀の始まり
- 2次元・・・“水星” 心との関係・・・“火星” 狂気・怒り
- 3次元・・・“地球” 肉体との関係
- 4次元・・・“金星” 愛情
- 7次元・・・“木星” 力との関係
- 8次元・・・“天王星” サイキックな事との関係
- “アルクトウルス星” 発展との関係
- “海王星” 神秘的な事との関係
- “セプティマス星” 意識との関係

(完)